

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム こせん 1F		
所在地	熊本県熊本市中央区壺川2丁目3-70		
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習所に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中高があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。地域でも高齢者世帯が多くなっているとの事で、今後は更に地域の方が気軽に来訪やご相談頂ける様な取り組みも検討していく予定である。また、地域の皆様や他事業所の方々からは開設時より様々な場面で声掛け頂いている。更に近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、ご利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近付ける支援体制となっている。沢山の方々を支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員となれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると、色とりどりの花や変わらぬ入居者の歌声、食事が待ち遠しくなるような調理の匂いが、ホームの穏やかな日常を表しているようである。広報誌による取り組みの発信や、面会時には体調面を含めた現状やエピソードなどを笑顔で伝え、家族と一緒に笑える時間を持つことは、安心や信頼となっている。運営推進会議や地域の介護事業所と連携を図る中で、高齢世帯や独居者などが増えていく現状に対して、ホームはこれから何が出来るか、何が重要かをじっくり検討し、地域の一員として果たすべき役割を模索している。法人開設者の『自分の親を安心して預けられる介護施設』でありたいとの思いを継承しながら、今後も入居者・家族の思いに職員の笑顔と力を結集して取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの方の事例課題へ取り組む中で、残された能力・役割・居場所作りなどを振り返り実践に繋がり想いの共有化となつて来ている。オムツはずしや夜間入浴も共通認識となり、スムーズに実践に取り組んでいる。	法人理念を受け継ぎ、主軸とするおむつ外し・ユニットケア・夜間入浴の他、地域密着型事業所としてのホームのあり方を盛り込んでいる。常に入居者目線に立ち、本人の立場に置き換えながら支援方法を検討し、入居者の目の高さから見える室内環境にも思いをはせながら、季節感ある花を飾り、せつかくの窓からの景色が物品で台無しにならないよう住環境にも力を入れている。理念は運営推進会議でも紹介し、地域へ向け啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出先での交流は入所者の高齢化や状態などにより、徐々に減ってきている。しかしホームが集いの場になれるよう運営推進会議の構成メンバーの皆様のお力添えにて、ホーム内での「認知症サポーター養成講座」を今年度も開催する事が出来た。又、次年度は「認知症家族の会」の開催を予定しており、年間を通して新たな地域交流の場となればと考えている。	自治会に加入し、近隣とのやり取りや付近の散歩を通じ、顔なじみの人々との交流が続いている。前年に続き運営推進会議を活用して『認知症サポーター養成講座』を開き、認知症への正しい情報を発信したり、隣接する自動車学校のイベントには毎年足を運び、地域の人々と接する機会を持っている。	管理者は徐々に地域に認められているとホームの現状を語っている。今後も認知症啓発の拠点として情報の発信や校区の小・中学生の体験学習の受け入れなども検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の皆様の協力にて、認知症サポーター養成講座を年1回開催する事ができ、徐々に地域のサポーターの方々が増えて来ている。今後は、サポーターの皆様が活動して頂ける方法を模索していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は一年間の開催内容を、構成メンバーの皆さんの意見を頂戴しながら計画し、開催に繋げる事ができた。又、利用者様との交流会が多く情報交換の時間となった。	2ヶ月ごとの開催が定着しており、今年度は初回に前年度の会議を評価し、合わせて参加者と共に年間のプログラムを立て議題を決定している。参加者からは毎回貴重な意見や提案が出され、看取りに関するホームの考えや現状についての質問に、医療行為の必要がなければ応じたいとする考えを伝え、その後の終末期ケアに関するホーム会議に繋がるなど、推進会議が活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーとしてささえりあより参加して頂き、認知症サポーター養成講座の講師や準備等を依頼している。また地域向けの情報発信や提供をして頂き連携を図っている。	運営推進会議に参加する包括職員と共同で、『認知症サポーター養成講座』を開催し、地域へ向けた啓発活動に努めている。外部評価の結果は直接行政へ持参し、市主催の研修には出来る限り参加して、情報を共有し友好な関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為、その弊害について理解している。ご利用者の現状を把握し必要時、ご家族に相談しながら出来る限り可能な工夫を検討し、適切な対応に努めている。	職員は勉強会の中で身体拘束についての弊害や入居者に及ぼす影響などについて、正しい認識を持っている。また、日々の申し送りやチョットした時間にも事例を通して検討したり、入浴中のボディチェックにより打ち身や皮膚の異常などを確認し、入居者の安全な生活を支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一つ一つのケアや言葉掛け、特に語気の強さ等小さな事から虐待に繋がらないように注意し、スタッフ皆で心掛けている。ホーム会議でも語気の強さや介護動作の見直しなど話し合うことで虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学習の機会がなかったが、次年度は法人内の取り組みが研修会の充実となっている為、講師依頼にてより広く知識を吸収できるよう繋げたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の変更や料金改定の際は家族会や面会時又は、手紙にて報告説明をし納得された上でサインを頂いている。疑問や不安を抱えているご家族へは個別での相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話の中や面会等に聞かれた要望は記録に残し管理者へ報告している。意見箱も設置している。今年度は近隣の方からのご意見の中に臭いが気になると話があり、早急に臭いの原因と思われるリネンの設置場所を移動し設備も整え解決に努めた。	家族の面会時には必ず顔を合わせて話をしよう申し合わせており、入居者の近況を交えながら忌憚のない意見を求めている。会話の中に出された思いや、入居者の日々の声を記録し、全職員が共有しながら支援に活かすよう努めている。近隣住民からの意見にも誠意をもってあたり、対応後の報告などが行われている。	開所から5年が過ぎ一つの区切りとして、『家族アンケート』を実施するのも良いかと思われる。ケアへの要望など細かい質問事項を検討し、運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の実情や利用者の思いを反映する意見やホーム内で出た意見・提案はホーム会議にて話し合い、議事録を本部に送り意見を頂き運営に反映させている。	職員は普段から入居者に関することや業務改善について自由に意見を出し合い、月の会議では更に検討しながらより良いホーム運営を目指している。入居者の「買い物にいきたい！」との声に、大型店で買い物や食事を計画し、入居者が生き生きと参加された様子が確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からスタッフとのコミュニケーションを大事にしている。個人の於かれている環境の相談にて、法人本部への連絡相談を行い働きやすい環境を整え個人個人のスキルアップへも繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの能力に応じた研修を随時進めて貰っている。又研修案内資料を置く事でスタッフが自由に選択受講できるようになっている。研修後は伝達講習も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会内の研修や地域密着型に関する研修に参加し、参加できなかったスタッフへは伝達講習に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者自身は、色々な事を思い考えながら当ホームに入ってもらえる。情報を多く集め尚且つ本人様との会話を多く持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何の躊躇もなく、不安な事・要望などを言えるような雰囲気を作る為に、声のトーンや笑顔に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者にとって、何が必要かを見極めるだけではなく、ご利用者・ご家族の会話の中から又、他サービスも導入しながら満足度を埋められる様な支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事が中々進まない方、立ち上がりが頻回にある方に、同席者の方々が声掛けをされたり話を聴いて調整をされたりと生活の中で、スタッフでは成しえない支え合う関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な行事を定期的に行い、ご家族にも参加して頂き、行事を通じてご利用者とご家族が疎遠にならない様にし又1人にされたという不安を抱かれない様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい所へ外出された際には、帰苑後にどのような様子だったか等を、ご家族様・利用者様と話をしている。その情報をスタッフ同士で共有し、少しでも早くご利用者との会話の中に盛り込むなど、それまでの想いを大切にしている。	家族の協力を得て外食の機会や墓参などが支援されている。入居者にとって日々繰り返されるホームでの生活そのものが馴染みであり、顔見知りの業者から届く食材をユニット同士で分け合ったり、テーブルの花を活けて楽しめるなど、ここでの暮らしが息づいている。歌の得意な方に合わせたコーラスや職員の衣類を繕い、服装をチェックされるなど家族の長としての役割もこなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	【レクリエーション】という時間を、午前・午後にて設けており、利用者様とスタッフで体操・言葉遊び・歌など取り組んでいる。又、スタッフだけが指導するという立場に立たずご利用者同士でも会話を持って頂き、その中でも出来る事・出来ない事などを把握しさり気なく、関係性の支援にも取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居される方が混乱なく過ごして頂けるようホームで過ごされた情報は、転居先の関係者に伝えている。転居先への面会時にも情報提供に心掛けている。長期入院から退所になられた方へも定期的にお見舞いしご家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子やお話など見逃しや聴き逃しがないようにしている。意思表示が困難な方もご家族からの情報を基にアプローチを行い、多くの希望に添えるよう心掛けている。今年度は「買い物に行きたい」とのお話から普段近隣のスーパーでは揃わない商品購入を目的にし買い物ツアーを行った。	職員は日常の関わりの中で、本人の発せられる一言や表情を逃さず、思いを汲み取るようにしている。また、意思表示が困難な方に限らず、家族の来訪時や電話連絡など情報を共有し本人の思いや意向に添える支援に繋げている。また、ユニットの垣根を越えて全職員でなにか気づきがあれば、提案できる環境を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に基本情報の把握と日々の生活の中での様子について、ご本人・ご家族からの情報も踏まえ、これ迄の暮らし振りを尊重しながら、ホームでの生活に徐々に慣れて頂くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLが重度の方へ視点が行きがちになるが、自立している方へもレクや日頃の作業を通し、残存能力の把握に努めている。環境が変われば出来る事・出来ない事が出現する為スタッフ1人1人が情報共有を行い必要な支援を見極めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のホーム会議にて情報共有を行い、必要な支援や介助方法について状態報告も含め現行に沿ったものであるのか検討を行いプラン反映に努めご家族への了承を得ている。	本年度から年間研修計画にプラン作成についても組み入れ、全職員が再度プランについての認識をしっかりと持つことでケア向上を図っている。生まれ育った故郷の話を傍らで聞きながら、本人の「出来ることは自分でしたい」との思いに人の役に立つことで自身の喜びとなるよう無理のない家事手伝いを盛り込んでいる。3か月ごとのモニタリングで評価し、内容の見極めを行い現状に即したプランとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での記録はその日関わったスタッフ全員が記入し、状態・状況変化等の気づき等それぞれの事柄を記し情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年より必要な方に訪問マッサージを取り入れ、拘縮予防や浮腫の軽減に繋げて貰っている。又スタッフが日常に継続できる予防の仕方を教えて貰い継続支援に取り組んでいる。更に白髪染めの希望者には美容師を依頼し、希望のカラーに染める事が出来る等ニーズに対しては柔軟に取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある福祉事業団より、地域の方々とのお餅つきにお誘い頂き参加させて頂いている。又、地域の方々に慰問(歌や踊り・演奏)頂き、楽しみに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	見学・相談時に協力医の説明を行っている。入所契約時も説明をし、かかりつけ医を決めて頂いている。協力医からの往診は二週間に一度ではあるが相談内容に応じては随時往診されている。又専門医受診時にはご家族と相談の上、病院の紹介もされている。歯科医の協力があり義歯調整・口腔内チェックの往診も定着している。	見学や入居相談時に協力医療機関の存在を説明し、契約時にかかりつけ医の決定を受けている。現在殆どの方が協力医による定期や必要に応じた往診、希望する医療機関へ家族による受診が支援されている。また、歯科について希望を尊重しており、協力歯科医の往診によって義歯調整や口腔内チェックが行われている。職員は食後の歯磨きや義歯管理などを支援しているが、居室で歯磨きをされていた方が、見守りやチェックが不十分となり、現在はリビングの洗面台で対応するなど、個々に応じ支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師スタッフ、訪問看護との契約はないが協力医からのサポートを頂いている。協力医と24時間連絡が取れる状況で相談・指示を仰いでいる。又スタッフも定期的な勉強会を実施し医学的知識や薬の情報も習得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム内での生活の様子など申し送り書を作成し、入院先でも困られないよう支援に努めている。又、ご家族や病院内の相談員から頂く入院の様子や、現在の状態など情報交換を行いながら退院までの経過支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず契約時に書式を使い終末期に於ける説明を行っている。更に状態に変化が見られた際にはご家族・協力医、スタッフと今後の方針について状態を考慮の上、検討を随時行っている。ご家族の望まれる事とホームのできる事を話し合いながら後悔のない終末期へと取り組みを心掛けている。	入居時に重度化・終末期支援について、医療支援ができないことや本人の意思を尊重し自然な形で出来る支援に取り組んでいることを説明している。ホームは日頃から入居者の状況について、家族と連携を図っており、変化が見られた時は、医師やを含め今後の対応を検討している。看取りに関しては、ホーム会議の中で必要な研修を行っており、本人・家族の思いを汲み取りながら出来る最良に支援に取り組むことを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や高齢者に多い事故等を勉強会で学び、知識を共有している。事故発生時に記入する報告書はスタッフ全員が確認を行ない再発防止に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、いずれも昼間と夜間想定をそれぞれに訓練経験が出来るようにしている。又、火元の想定も色々な場所を設定し避難方法等の訓練に繋げている。地域の方々へは運営推進会議の中で広報誌を活用し避難訓練の様子を説明しながら、協力体制へのお願いをしている。	今年度は昼・夜を想定し消防機器業者の協力を得た自主訓練が実施されている。訓練後業者より、職員の声が出ていなかったことや発見から誘導までの手順に時間がかかり過ぎていたなどの指摘を受け、次回に活かすことを職員間で共有している。安全チェック表による火元確認や、コンセントの埃などにも注意を払っており、台風接近時には、風呂場に水を張ることやおにぎりを準備している。	次年度は運営推進会議の中に避難訓練を組み入れたいとしており、実現により更に地域・近隣の協力体制に繋がると思われる。取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁の際はさり気なく誘導し、個人の力に応じて声掛けや対応を行っている。人生の先輩として敬語を使い、馴れ合いの関係ではない言葉使いを気掛けて対応している。その方にとって輝いていた大事な頃の呼び方などそれぞれの方に応じた呼び名で声掛けをしている。	一人ひとりのこれまでを尊重し、その方の持った力を発揮したりさりげないサポートを心がけている。また、管理者はその方を否定しないケアの実践について普段から指導を行っており、職員の方言を使用しながらも失礼の無い対応が見られた。寒い時期の排泄支援では、プライバシーにも配慮しひざ掛けが使用されている。呼称は反応をみて苗字や下の名にさん付けとし、同姓介助にも可能な限り努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような生活をされていたか等昔の話を聞いたり、日々の他愛のない会話の中からご本人の希望等を探り、それを実現しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしその方の希望に合わせ、体力・能力に応じてできる事を見守りながら個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びが出来る方には選んで頂き、出来ない方には本人のイメージに合わせ選んでいる。又、四季の行事に合わせた色使いの服や化粧を楽しめその人らしいステキが引き出せるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞きながらメニュー作りをしたり、出来る範囲の事や出来るような工夫をし食器拭きや食材の切り込み、配膳・下膳を一緒にして頂いている。又、季節の葉や花などをお膳に飾り見た目でも楽しめる様な工夫も行っている。	一軒の家として、入居者の希望や季節感を取り入れた献立をユニット別に作っており、食材は市場からの配達など、鮮度や質にこだわった物が使われている。また、普段から盛りつけや器には工夫を凝らしているが、おせちや節句、誕生会などの行事食はホームでの食事を更に楽しみなものにしている。食材の下準備や味見など入居者が無理なくできることで食へ関わってもらったり、節分では巻き寿司を手際よく巻かれる方もおられる。個々に応じた食形態を準備し、職員も同じ物を一緒に摂り弾む会話の食事時間であった。	こだわりの食材や工夫された献立など、ホームの食への取り組みは入居者の日常生活の中に定着している。今後も楽しい食への提供を継続していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況に合わせ形態やメニューを工夫している。また、水分としてのお茶等が苦手の方にも、ご本人が好まれる飲料をアセスメントし少しでも多く召し上がれるようその都度都度工夫を重ね、スタッフ間で情報伝達に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で口腔ケアが出来る方は見守り、出来ない方でも義歯の着脱をお願いしご自身で習慣付かれた能力を活かす声掛けなどの工夫を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が当たり前である事がスタッフの中で定着している。誘導ノートを活用し声掛け・誘導・介助をお一人お一人のパターンに合わせて行っている。ご自身でトイレ利用が可能な方にはさり気ない見守りや確認を行なっている。	トイレでの排泄を基本とする法人の方針は職員間にも定着しており、日中は声かけ誘導、さりげない見守りなど一人ひとりの状況に応じて支援している。また、夜間もおむつを使用しないため、ポータブルトイレ設置が多くなっている現状であり、配置場所や支援方法などにも十分配慮しながら安全な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促せるように、食事に野菜や繊維の多い食品を取り入れたり、身体を動かして貰える様心掛けている。便秘の方には飲み物の工夫をし緩下剤の量を減らせる様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	法人の取り組みでもある夜間入浴を基本に週3回の入浴を行なっている。菖蒲や柚子を湯船に入れる事で季節を感じて頂いたり、時には入浴剤の利用なども行い入浴時へのくつろぎに繋がるよう努めている。	開所時から法人の夜間入浴体制を基本とし、週3回の支援を行っている。入浴剤や菖蒲・みかんの皮湯など季節や香りを楽しみながら、寛げる時間となるよう心掛けている。また、管理者は浴室の窓棚に物品(洗剤やたわしなど)を置いたりすることで、入浴気分を損なわない様指導しており、整頓を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人のリズムに合わせ前日の睡眠状況をスタッフ間で申し送り、眠れていない方には生活の状態を見ながら休息を促している。又、寒い時期には湯たんぽを利用し安眠へ繋げたり室内の乾燥防止にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報を個人記録に綴り、スタッフがいつでも確認できるようにしている。又、飲み忘れや誤薬がないようにチェックシートにて服用前・後と二人体制での二重確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花をプランターに植えるなど本人の出来る範囲でスタッフと一緒に楽しみを持って頂くよう支援している。又、楽器の演奏等それぞれの方ができられる事を把握し、希望に添える気分転換を心掛け支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話の中から買い物や散歩をしたい等の要望があれば、気候の良い日にスタッフの付き添いやご家族の協力を得て行っている。ご夫婦単位で入所されている方はご家族も夫婦で来訪され、親子夫婦揃って散歩へ出向かれる事もある。	会話の中で出される外出への要望(買物・散歩など)には、可能な限り対応できるように努めている。また、地域資源を活用して花見や初詣をはじめ、交流のある介護事業所からの招待による餅つきなど、年間を通して様々な外出支援の様子は、聞き取りや広報誌からも確認された。花火や観月会(月見)にも数名の参加を支援するなど、日中に限らず夜間のイベント外出も行っている。家族や知人と外食を兼ねた外出支援では、介護タクシーも利用されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望の方にはお店に行き購入時にお金を使う支援をしている。その際の収支の確認は本人とスタッフ2名で一緒に行っている。又、お金を持っているだけで安心する方もおられる為見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の気持ちを考慮し本人に代わってご家族に電話している。又、小包やお便りが届いた際は個別に対応している。年賀状には日常の顔写真にメッセージを沿えご家族と本人の橋渡しを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に合わせた飾り物や行事の案内板がある。廊下やリビングには季節や行事毎に手作りの装飾や作品を展示し一人一人の感覚を大切に居心地良く過ごせるようにしている。庭の花を摘んでリビングに飾られる方もおられあちらこちらに存在感を感じられる空間となっている。	入居者がホーム内においても季節感を感じながらゆっくりと、時には快活に過ごせるよう、職員は植物や飾り物・音楽などを活かした空間作りに努めている。家族から届けられる花、庭や散歩中に摘んだ草花はリビングや洗面などに飾られ、入居者が戸外に出る楽しみにも繋がっている。歌の大好きな方を中心にコンサート会場のような時間のある1階ユニット、近隣の風景を眺めながら、昔話や職員と絶妙なやり取りが繰り広げられる2階ユニットなど、それぞれの居心地の良さが伝わってきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用テーブルでテレビ・ゲーム・音楽を観たり聴いたりしながら一緒に過ごせるようにしている。独りを好まれる方には他のテーブルで過ごせるよう配置を考えそと見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしいお部屋作りをする為家族と相談し、馴染みの物を持参頂いている。居室でピアノを弾いたり庭に花壇を作ったり、お花を採って花瓶に挿されたり家族の写真を飾られたり、それぞれのお部屋作りとなっている。又入所前後の身体レベルに合わせて家具やベッドの配置を替え生活しやすい環境作り心掛けています。	居室の位置によって採光などは多少異なるものの、どの部屋からも木々の緑を眺め、使い勝手の良い広さが物品の配置をしやすくしている。入居の際、馴染みの品などが持ち込まれているが、その後も状況に応じながら家具の位置やベッドの高さなど、見直しを行っている。居室内は臭気もなく清潔に管理されており、エアコンも定期的な掃除が行われている。	趣味や特技など一人ひとりのこれまでや、安心した生活を送ってとの欲しい家族の思いが伝わってくる居室であった。夏場は陽射しの強い部屋もあると思われ、今後も室温管理には十分配慮しながら、居心地のよい居室環境に努めていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方と集中してできる事柄や時間又、出来られない分野を把握した上で、作業の促しや分担を心掛けている。特に女性の方は食事作りを競われる為、作業内容を少しずつ分担しスタッフが近くで見守りや物品を準備する事で、出来る分野での活躍が見られる暮らし振りとなられている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム こせん	2F	
所在地	熊本県熊本市中央区壺川2丁目3-70		
自己評価作成日	平成28年2月28日	評価結果市町村受理日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習所に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中高があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。地域でも高齢者世帯が多くなっているとの事で、今後は更に地域の方が気軽に来訪やご相談頂ける様な取り組みも検討していく予定である。また、地域の皆様や他事業所の方々からは開設時より様々な場面でお声掛け頂いている。更に近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、ご利用者とそのご家族が希望される「健康で安心して生活」に近付ける支援体制となっている。沢山の方々を支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員となれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オムツ外し、ユニットケア、夜間入浴の3大理念と共に、地域に根ざす、残存能力を生かす、個々の生活を尊重する事業所理念を生かす取り組みとして、家族との連携や近況報告、看板の掲示による行事参加を促す等の行動を行い、日々の実践としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者のご家族や、同じ校区内に居住するご家族やスタッフからの情報提供や協力要請により、年間行事での交流やボランティア要請を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を年1回開催し、徐々に参加者が増え、理解が進行しているが、今後は地域行事に参加する中で、ホームが情報発信できるような取り組みを行う努力をしている。そのために地域活動に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の実施内容として、ホーム行事への参加や交流会を実施したが、その中で地域住民の視点、助言があった場合にはホーム内で話し合い、改善へと結び付けている。会議内での地域住民との意見交換も積極的に行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議メンバーとしてささえりあより参加して頂き、認知症サポーター養成講座の講師や準備等を依頼している。また地域向けの情報発信や提供をして頂き連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階構造を利用した、フロア間での一時的な預かり、見守りを実施。経験の浅いスタッフには、その意義・目的を説明・助言を行っている。スタッフ間のこまめな話し合いにて、転倒防止にも努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、ホーム会議の中で、事例をあげながら、学べる機会を設けている。今後はその背景についても勉強会、研修報告を通じ、情報提供を行う予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学習の機会がなかったが、次年度は法人内の取り組みが研修会の充実となっている為、講師依頼にてより広く知識を吸収できるよう繋げたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章による掲示や、口頭の説明にて、重要事項や契約に関する説明を行い承諾を頂いている。改訂時やお問い合わせに関しては、スタッフがご家族等に説明出来るように、事前に情報共有を行い、不明点を管理者がバックアップ出来る体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族、スタッフが1つのファミリーの様に、お互い言いたいことを言い合える関係の構築に努めている。開設5年目にあたり、開設時からの入居者に加え、新たに入居された方とその家族間の交流が持てるよう、家族会等での席位置や行事での役割分担を工夫し、交流を図りやすく出来る様、援助を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に早く解決してほしい内容等の意見・提案が出た場合、勉強会や会議の場はもちろん、日々の業務の中で意見の傾聴等や提案、アセスメントの実施を通し、意見反映と日々の実践へつなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境の変化による相談がある場合が多く、都度法人本部への連絡・相談を行い、スタッフのスキルを活かしつつ、働きやすい環境を整えること、また周囲へのフォローアップを行い滞りない事業所運営が行える様取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に関催する勉強会の中で、主に経験の長いスタッフが講師を行う。また経験の短いスタッフが講師を行う場合、経験の長いスタッフがサポートを行いながら、スキルアップを図っている。また部外講師に専門領域の知識講義を依頼、専門外の分野の専門的な技術も合わせて学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に関催される「GH連絡協議会」や「地域ケア会議」または、各種の研修会に参加し、現場や他事業所様の取り組み等を学んでいる。また当法人の他事業所との行事協力を行い、良い点や問題点を知り得ることで、当事業所での取り組みに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活状況を、細かいところまで伺いながらそれを想像出来るように、事前訪問や関係者からの情報を収集し、入居者から細かに聞きながら、不安を取り除き、信頼関係を作り安心へと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、利用者様の近況報告する中で、家族に話を充分聞きながら、家族の思い等を、会話の中より汲み取れるように気配りしている。またスタッフがその思いを汲み取りながら話をすることにより、ご本人様の心の安定が図れるようつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の毎日の様子を観察し、変化を見逃さない様にしている。又、他サービス事業者の専門職に意見を聞いたり、サービス期間をお願いできる関係作りを構築している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間のある時は、その方の昔話を聞いたりしながら、話を共有し、傾聴に努めている。共働作業を行うことで、自身が役割を果たしている実感が得られる様な、場面を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、利用者様の近況報告を常に行い、ご家族からも情報を得られるよう会話を大事にしている。面会時や行事の際は一緒に参加して頂き少しずつ関係を深めてもらえるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られたら、関係をよく把握した上で、会話をしやすい様に、面会場所の提供を工夫している。また馴染みの方からも話を聞き関係を思い出せるよう工夫をし、関係が継続していける様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士で話がしやすいよう、ソファー席をお勧めする等、ゆっくりと出来る環境を作る様にしている。また、お互いに心配し合い、相手を気遣ったりする中でスタッフが仲介に入り利用者様同士が笑顔で会話できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居される際には、利用者状況やこれまでのケアの工夫、本人の性格家族の意向等、転居先の関係者へ伝え、利用者様が今までと変わりなく、過ごして頂ける様に配慮している。また、長期入院から退所になられた際にも、定期的にお見舞いし、ご家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	たとえ、口頭で意向や思いを伝えられない方でも、表情や仕草等、沢山の表現で思いを伝えられるので、それを見逃さず、1つでも、多くの希望に添える様、スタッフ全員で話し合いアセスメントを実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様が今までと変わりなく楽しい日々を過ごして頂ける様に配慮している。家族より嗜好品の差し入れや面会、愛犬との戯れ等笑顔になれる事が重要と考えている。また既往歴や内服薬の努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況を把握する為には、1人1人が持つ情報が必要であり、その方の新たな一面等を常にスタッフで話し合っている。また自立度が高い方にも注意を払い、その方が全てが出来ると思い込まずに、常に声掛けや観察を行い現状や残存能力を正確に評価、把握する事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1日の様子を出し合い、24時間の状況を確認している。月1回のホーム会議では、スタッフ全員で、利用者様1人1人の情報交換を行い、今その方にどの様な支援が必要なのかを話し合い、アセスメントし全員で統一した支援を行っている。またご家族の面会の際にも嗜好品や、昔の話等聞いて、ケアに活かす努力をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	暮礼ノート(情報交換ノート)を活かし、日勤者は、前夜から日勤帯の情報を本日の夜勤者へ申し送り、夜勤者が全ての情報をノートに記入し、情報交換を行っている。出勤者は、必ず、ノートを確認し、疑問点やわからない点はその場ですぐに確認し把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が日常動作をより良好に行えるように施術師によるマッサージだけでなく、でも実施出来るマッサージを指導して頂き、毎日のケアに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内のイベント等では、アットホームな雰囲気を楽しんでいただけるよう配慮している。地域住民のご家族様より地域の方を紹介して頂き、積極的にイベントの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調やバイタル面に変化があれば、すぐに協力医へ報告を行い、ご家族へも連絡を入れている。ご家族本人のご希望の病院へ受診希望があれば、協力医より紹介状を書いて頂き、スムーズに病院受診が出来るようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緩下剤や軟膏等、その方に必要な薬は表を作り把握し、スタッフ全員が確実に処置出来る様にしている。また常に利用者様についての情報交換を行っている。またスムーズな対応に繋がると思われる為、協力医の看護師に利用者様の状態報告だけでなく、その方の仕草、行動特性、性格等の情報等の話も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族も含め利用者様が今までと変わらないケアで入院生活を送れるように医療機関に対し申し送り書をお渡しするのはもちろん、日々の状況等と一緒に情報提供することで、より深く状態を伝えられるようにしている。入院中は、ご家族からの状態報告やスタッフによる病院来院などを行いながら、支援へと繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの看取りを経験し、第三者を交えたディスカッションを行ったことで、自分たちのケアの仕方や利用者様の思いを考え思い返すことが出来た。日々の関わり大切さを改めて知るよう、ディスカンファレンスを今後のケアに活かし、終末期の取り組みとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開き、急変や事故の際どのように医療機関やスタッフ同士が連携をとるのか、応急処置の方法もスタッフ全員で実践形式により学ぶ機会を設けている。急変に備えては早急に異変を発見出来る様、常に表情や身体状況を確認し、ちょっとした変化も報告し合い様子観察している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間での火災を想定した消防訓練を別々に行い、人数が少ない時間でも的確に動けるように実践訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけ等は他人には分からないように配慮している。個室で対応し、羞恥心を傷つけないようご本人不在時に汚れ物等は片付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昔の話を聞いたり、どんな様で生活していたか等話を聞き、その中でご本人の希望等を探り、それを実現しやすいように働きかけている。帰宅願望がある人は散歩やお茶に誘ったり、話し相手になり、気分転換して頂くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性や今までの暮らし方を踏まえつつ、希望を汲み取っていく。集団での生活にも興味を持てるようにメリハリをつけ、様子を見ながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たんすの中を整理したり、衣替え等でその人の衣類等を把握し、TPOに応じ、好みを聞き助言を交えながら服選びを実施している。行事、外出時には化粧品を使用し個別に整容の支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りより参加され、一緒に下処理、準備、片付け、盛り付け等を実施している。その際に昔の作り方を聞いたりし、調理法ややり方を尊重するようにしている。見た目でも季節感を感じられる様、盛り付け、使用する食器等で工夫を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	完食出来る様声かけや工夫を行い、水分は提供温度や嗜好を注意深く観察している。食事形態は摂取状況等を毎回観察し、必要に応じ変更している。ご家族の面会時に嗜好品を持参頂き適宜ご本人に提供している。夜間も脱水症状の予防のため、水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけし洗面所に誘導、ご本人が出来ない部分不十分な部分を解除し、継続的ケアに努めている。食事時の様子や(咀嚼等)歯磨きに歯の状態を併せて観察している。状態により、協力歯科医に連絡し往診を依頼、歯の治療や義歯の調整につなげている。口腔ケアの方法や指導もスタッフも共に受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄困難のご利用者は毎回付き添いを行い、失敗のないよう支援を行う。また誘導ノートを利用し記入を行うことで、スタッフ全員で排泄パターンの把握に努め、排泄間隔のあいた方は声かけや誘導を行い失禁の防止に努めている。またオムツ外しの理念を実践すべく、オムツやリハビリパンツから布パンツへの移行支援も実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎回、排便時間と容量、性状を記録している。食物繊維の多い食材や牛乳、ヨーグルト等の乳製品を活用し、便秘予防を図っている。また必要に応じ管理者確認の下、下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各フロア夜間を基本として行い、体調不良等で入浴出来ない場合翌日の入浴や清拭、かけ湯にて対応している。また入浴中に湯加減の確認を行い、温度で入浴して頂き、ゆず湯などの行事風呂を行い楽しみながら入浴して頂けるよう支援している。脱衣所では暖房器具を使用し、室温調節を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠状況を把握し、夜遅くまで起きておられる方には、声かけを行い休息を促す支援を行っている。夜間は湯たんぽを使用し温度調整を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に全員の利用者様の服薬情報を挟んでおり、いつでも、用法、容量の確認を可能にしている。また薬の変更があった場合、その日の暮礼ノートに記録、申し送りを行い情報の漏れがないように努めている。また与薬前と与薬後に2人でチェック表を用いてチェックを行い、服薬漏れの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは個人個人の出番があるように一人一人の趣味や好きな物を盛り込み、全員が楽しめるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のご希望があればご家族に相談し、出来る限りご希望に添えるようにしている。また月間行事等で普段行けない場所へ外出を行い、玄関口の行事告知等を通じ、ご家族にも一緒に参加いただけるような工夫も実施。個別外出の要望があれば、ご希望時に介護タクシーの手配調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様へ金銭用途を説明しお預かりしている。又、使用後にはスタッフ2名で残金確認している。お金を持っている事で安心される方には毎日の財布・残金確認も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からのお手紙や電話が来た際は、ご本人にわかりやすく説明し、手紙や花、写真、プレゼント等については、居室やリビングの座席近くに飾って、理解して頂き繋がりを感じて頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に絵や書、イベントの際の飾りつけ、季節ごとのポスターなど手作りし、自宅でくつろいでいるような空間作りを行い、利用者が落ち着いて過ごして頂ける様な、フロア、空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は各利用者様の性格や状況を考慮し、仲のいい方が周りるように配慮している。また、好みの席やレクリエーション時等自由に移動出来、好きな場所にいつでもいられるよう工夫している。また、人が大勢集まる空間が苦手な利用者のために廊下にベンチを設け、静かに過ごして頂ける空間も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでおられた所で、大切にされているものや愛着のあるものを入所時に持ち込んで頂き、写真やお手紙などはご本人の目が届く場所に配置している。衣替えはご本人とスタッフ、ご家族と協力して実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様1人1人の特性を考慮し、リビング内の配置を工夫。ベッドの間取り等もご本人が利用しやすい場所へ配置を変更する等行っている。また状態変化に伴う転倒リスクの軽減のための環境整備を、利用者様のご意向を汲みながら、スタッフ同士で意見を出し合い、安全な環境を提供している。		